

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796400014		
法人名	社会福祉法人美木多園		
事業所名	グループホーム美樹の園 (玄武)		
所在地	〒590-0151 大阪府堺市南区小代414-15		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiryosyoCd=2796400014-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方がいつまでも生き生きとして美しくあってほしいと願っています。調理を楽しみ、外出楽しみ、毎日楽しく過ごして頂く為にイベント等毎月工夫をこらして企画しています。又女性の入居者の方が多いので、整容面には特に気配りしています。毎日のお化粧をほとんどの方がされています。プロによるエステやメイクなども定期的に行っています。そのための支援をプランに織り込んでいます。居室担当が、自分の担当の方の普段からの様子をしっかりと観察することによって、状態の変化や声をキャッチし、1ヶ月に一度行われる事例検討会に、全員が参加し情報交換を行い、ケアに生かしています。又生活層を大切に、今までの生活をできるだけ継続していただけるように、それまでの友達であったり、ご近所の方へのつながりを途絶えることのないように、手紙を出す支援や希望があればお連れしたりしています。デイ利用者とも教室やイベント等一緒にすごして頂き、刺激ある時間をすごしていただいています。職員へは、接遇面を厳しく指導しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、併設デイサービスとの共有部分に喫茶コーナーや会議室があり、地域の方へも開放しています。事業所内は広く、和風な装飾品を置き、色調を統一する等細部にまでコーディネートを行い落ち着いた雰囲気になっています。質の高いサービスを提供したいと考えられており、理念にもある「心を尽くす」ケアの実施と職員の質の向上を目的として外部・内部研修を多数受講し、中でも接遇に力を注いでいます。職員間のチームワークも良く、会議等で話し合いを重ねて業務改善を行い、働きやすい職場になっており、勤務年数の長い職員が多く馴染みの関係を築きながら日々サービスの向上に取り組んでいます。また、ボランティアを多様に活用し、各種の教室を開催する等、入居前からの生活の継続が出来るよう、趣味活動にも力点を置き支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に事業計画や目標を立て、スタッフ会議、勉強会の場を活用し、職員間で周知を図っている。日々の振りかえりシートも活用し、意識の向上を目指し、理念の実践に努めている。	開設前に職員の思いを話し合った上で、法人理念を基に事業所独自の理念を作っています。利用者一人ひとりの思いに沿った生活を支援できるように、常に何が必要かを問いかけながら業務に就いています。半期に一度振り返りの機会を持ち、評価を行って次年度の計画に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた事業所事業所であるよう、喫茶コーナーや研修室は、地域の方々がいつでも利用して頂けるように開放している。又、各教室へもいつでも地域の方が参加できるように掲示板にてお知らせしている。地域のお祭り、催しには参加している。	地域の祭りや運動会等に参加しています。各種趣味の教室では地域のボランティアの方々の協力もあり、利用者の趣味の継続を支える力となっています。ホームの行事は地域の掲示板を借りて知らせています。職員は地域の防災訓練に参加したり、認知症サポーターとしての啓発運動も良い、地域とのつながりを大切に考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	教室、映画、エステ、喫茶等すべて地域に開放し暮らしの一部として活用して頂けるようにしている。地域への啓発活動として、小学校や老人会へ出向き、認知症の方が安心して地域で生活できる町作り活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ず開催し、自治会長、民生委員他出席者から戴いたご意見や情報をサービス向上のために活用している。	会議は2ヶ月に1回、家族や自治会長、民生委員、地域包括支援センター等の参加を得て開催しています。運営状況や行事内容、アンケート結果等の報告を行い出席者から意見や地域の情報を得ています。家族の出席も多く年1回食事会を同時開催し、欠席の家族には議事録を毎回送っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	啓発活動の報告を行い、依頼があれば出向いている。地域包括も協力的で常に、南区グループホーム連盟のイベントや、当施設の行事などにも参加していただき、協力関係に努めている。	市の担当者とは常に連携を図り相談出来る関係を築いています。職員は、南区グループホーム連盟の会長を努め、同業者の横の連携にも積極的に取り組んでいます。また、区と協力して「認知症サポーター養成講座」の開催の協力も行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会による勉強会や、マニュアルによる身体拘束を理解し、拘束しないケアに努めている。又実地指導で指摘があったセンサーマットの利用方法を検討し、新たに、センサーマット使用マニュアルを作成した。	法人内で外部の講師による研修や、事業所でも伝達研修を行い身体拘束について職員に周知を図っています。玄関は暗証番号式の電子ロックですが各ユニット間へは廊下で繋り自由に入出りでき、ベランダも開けています。センサーマットは使用方法を認識し危険回避の為使用しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、勉強会を定期的に行うようにしている。		

グループホーム 美樹の園（玄武）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、勉強会を定期的に行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などについては、十分にご理解を戴けるように努めている。疑問や質問に対しても同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	声ボックスの設置、職員による聞き取りによる声、アンケートは、スタッフ会議、運営推進会議で報告、結果については、担当が分析し、今後の運営に生かしている。	面会時や行事等家族の参加も多く、意見や要望を聞いています。年1回アンケートを実施し意見が出やすいように工夫しています。運営推進会議でも多くの家族が出席し意見や要望を聞く機会としています。得られた意見は個別プランの検討や運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案等は、スタッフ会議等において聞き取っている。又フィードバック時、個々の意見を聞き取っている。	月1回のスタッフ会議には非常勤も参加し、ケアや運営について話し合っています。事前に議題を提出し意見や思いが表出しやすくしています。研修参加の機会も整い、特に認知症実践者研修には全員が受講できるようにし、スキルアップすることでサービスの質の向上に向けての意見が聞かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、評価を行っている。個々に目標を持って取り組み、達成度合いや内容について、きちんと評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修に月1回確保、年2回のフィードバックを指導する時間を確保している。法人外の研修には、正職員、非常勤職員を問わず、参加する機会を与えている。認知症実践者研修には、2年以上の全職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市南区内及び堺市全体の連絡会に参加している。南区のグループホームが行うイベントなどにはお互いに参加し参考にしながらサービスの質を向上させるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、面接時、入居時に本人の要望や希望、不安なことや思いを聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時面会時などに家族が許す限り聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機等ですぐに入居できない状況にあるので、法人の他のサービス(認知症デイ龍庵など)を説明したり他のグループホームの空き状況を伝えたり、他の施設を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は人生の先輩であることを忘れず、必要なときに必要なケアを提供するが、時には入居者から学び思いを共に感じられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡をとり、職員、本人、家族が大きなひとつの家族としてとらえて一緒に考え、本人をともに支えていくことができるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	絵手紙や電話を使った交流や、イベント行事に参加していただき、大切な方との交流が途切れないように努めている。	家族や・親戚等の訪問が多くあります。以前からの知り合いとカラオケに行ったり、家族と一緒に外食をしたり、家族が居室で泊まる事もあります。大半の利用者が日常的に外泊したり、入居前に行っていた信仰の集まりに出かける等、馴染みの関係の継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間を把握し、教室や外出を一緒にいたり、孤立している方がいたら、職員が間に入り、入居者同士よりよい関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの友達やご近所の方との連絡をとりもったり、職員が、近況を伝えるお便りを出すこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制をとり、全職員が1~2人の利用者と密にかかわり本人の要望をききとっている。又全職員は事例検討会議にて、担当以外の入居者の方の情報を把握している。	入居前に家族から書面にて意向や生活歴等をアセスメントシート道しるべに記入してもらっています。入居後は担当職員が主にに関わり、毎月気付きを出し合って会議等で話し合い思いを汲み取り、情報を共有しています。独自のアセスメントシートを用いて情報をまとめています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族と協力しあい、道しるべなど独自のツールを使用しながら、生活暦や環境など細かな情報呑む把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当チェック表 プラン観察チェック表により、様子を総合的に把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度家族に意見や要望を聞きとっている。又毎月1回の事例検討会議に夜勤者以外全員が参加し、居室担当チェック表をもとにより良いケアを目指し、プランを作成している。	アセスメントを基に、利用者・家族の思いや希望を取り入れ、主治医とも連携をとって介護計画を策定しています。日常的に必要な支援を明記されており、一人ひとりの生活状況や表情が伝わる介護計画になっています。本人の状態が変わったり、職員の情報等から変更したり、日々の記録が、モニタリングや評価に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人に合ったプランの作成 個性を重視したプランの作成に努めている。1週間に1枚のケアプランチェックシートを活用し、総合的に把握できるようにしている。日々の記録にもれないかも計画作成がチェックし実践記録の確認をし次のプランに反映できるようなシステムとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと一緒にイベント・レク・居室の参加・法人のイベントの参加		

グループホーム 美樹の園（玄武）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの友達やご近所の方との連絡をとりもったり、職員が、近況を伝えるお便りを出したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者の方は月2回の往診をうけている。往診時には、日頃の様子を伝え、助言などを良い関係を築いている。往診日以外でも、24時間体制で、連絡に応じてくださっている。又他の病院への受診も行っている。	本人や家族の希望を尊重し、入居前からの主治医にほとんどの方が往診を受けています。24時間の医療連携をとり、看護師の配置もあります。眼科等の他専門医への受診は事業所での送迎も対応可能です。往診記録は主治医が記載の文書を家族に郵送しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム看護師、デイ看護師が18名の入居者とかがかりがあり、相談や助言をしている。訪問看護師とも気軽に話しが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は計画作成担当が中心になり、頻りに病院を訪ね、状況を常に把握できるようにしている。又、家族、病院関係者との担当者会議を開き、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、入居時から常に家族と話し合っている。家族の希望により、ターミナルも行っている。(6名) 主治医、グループホーム看護師、訪問看護師と連絡をとりあい、チームとなり取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りについてホームとしての方針等を説明しています。重度化した場合は法人の施設へ転居の選択枝もあります。ホームでは看取りの経験があり、職員は主治医、看護師、訪問看護師等と連携を図り、必要な支援を行っています。事例を用いての勉強会や話し合いを重ねて職員の精神的不安の払拭やスキルアップ出来る様に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日勤帯と夜勤帯を想定し、非難訓練を行っている。又と地域の避難訓練にも年1回参加している。	消防訓練は、昼夜を想定して年2回実施していません。内1回は消防署が立ち会い、併設のデイサービスと合同で訓練を実施しています。避難誘導や初期消火、通報訓練等を行っています。地域の防災訓練にも参加しています。運営推進会議では、グループホーム火災が話題に挙がりホームの取り組みを話す機会になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務終了後毎日、接遇についての振り返りを行っている。接遇、言葉遣いについての勉強会を行い、ひとのひとりが心がけている。	事業所では特に接遇研修に力を入れ、「今日1日の自分」のチェックシートは点数制で毎日記入し振り返りが行われています。言葉かけや利用者を傷つける対応があればその都度注意しています。入浴や排泄等の援助は同性介助で行う等の配慮も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	計画作成担当や、居室担当が特に密にかかわり本人が思いや希望を表せるよう働きかけ、自己決定を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに職員があわせ、必要なときに必要な支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は女性らしさを忘れないように、スキンケアや化粧、髪型、服装などケアプランに取り入れたり、訪問美容室やエステサロンを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては、食事会議にて委託業者に入居者の方の好みなど伝え一緒に考えている。月2回以上はクッキング計画担当を中心に楽しみながらの食事作りを実施している。茶碗箸湯のみは自分専用であり、その他の食器も陶器を使用している。準備配膳片付けも一緒に行っている。	食事作りは委託業者に任せていますが、食事会議を開催し、献立に利用者の希望や好みを反映しています。盛り付けや配膳、片付け等は出来る方と一緒にしています。職員は、同じ食卓につき、見守りや会話等しながら楽しみの時間を作っています。月2回以上クッキングの日を設け、食材の購入から調理、後片付け迄、利用者と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録をとっている。水分補給はAMとPMに時間を設け、好きな飲み物をメニューから選び飲まれている。栄養バランスは栄養士による管理がされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて週1回～月1回の訪問歯科を利用したり、毎食後一人一人の状態に応じた口腔ケアの声かけ、介助確認を行っている。		

グループホーム 美樹の園（玄武）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のある方でも、おむつを使用するのではなく、まずは排泄パターンをつかみ、トイレに誘導し、トイレでの排泄ができるように努めている。おむつを使用する時は、順を踏み行っている。	各居室にトイレがあり、ほとんどの方が居室のトイレを使用しています。現在、紙パンツ使用の方はおらず、本人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うことにより、紙パンツから布パンツへ移行した利用者がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々散歩したり、体操したり、運動を毎日取り入れている。又必要に応じて、整腸作用のある飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には最低隔日には入浴できるようにしています。毎日入られる方もいます。出きる限り希望に沿えるようにしている。	入浴は、2日に1回、午後～夕方にかけて入ってもらっています。希望があれば毎日入浴することも可能です。拒否があれば、職員を変えて声かけしたり、タイミングを図る等工夫しています。併設デイサービスの浴室で、温泉気分で入られる方もいます。脱衣室にロッカーを設置し、利用者毎に足マット、シャンプーやリンス、入浴剤等を保管し、個別に入浴を楽しんでもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、話をきいたり、足浴やホットドリンクなどリラックス効果のあることを支援している。日中も個々に応じて必要な方には、1～2時間程度休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルにていつでも確認できるようになっている。薬の効果効能、副作用なども、主治医、薬剤師、配置看護師から情報を得るようにしている。服薬支援はマニュアルに沿って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続や余暇活動では、思考を凝らし楽しみごとなどの支援を行い、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、外食など本人の希望に沿ってできるだけの支援を行っている。	気候の良い時には周辺へよく散歩に出かけたり、敷地内の遊歩道で四季折々の花を楽しんでいます。希望により外食にも頻回に出かけています。家族の方が参加される旅行や花見、遠足等もあり、紅葉狩りの際は食事をしたり温泉にも入り喜ばれています。運動会は体育館を借りて法人合同で実施し、学生や一般のボランティア、家族等の協力が得られています。	

グループホーム 美樹の園（玄武）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、現金を所持し、使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての居室には、電話が設置できるようになっていて、数名が居室へ電話をひいている。公衆電話も設置している。字の書ける方は、月2回程度定期的に家族へ出すための支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備は常に気をつけています。季節に合わせての草花や観葉植物を設置している。光の差し込む場所にはカーテンを設置、光加減を調節している。リビングのテレビの音は、都度職員が気にかけて、調整している。	リビングは天井が高く、大きな窓からは景観が楽しめる等、明るく開放感があります。廊下は町屋風で懐かしい空間を作り、フロアやテーブルには、生け花、フラワーアレンジメントが飾られて季節を感じられるようにしています。家具や空間等の色調も、落ち着いたトーンで統一されています。廊下にテーブルセットを置き、離れた場所で利用者が思い思いに寛げる場所が確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ダイニングテーブルとソファの2箇所の空間を、廊下にもソファやテーブルを設置し、一人になりたい時は、居室で、みんなと一緒にいたい時は、リビングでと、本人の意思を尊重した援助を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いなれた家具や物品をお部屋に置いている。今までの生活を出きるだけ崩さないように心がけている。安全面に配慮しながら、基本的には、レイアウトは家族の意向に近い配慮を行っている。	各居室には車椅子対応の広いトイレや洗面所、クローゼットが設置されています。居室で安心して過ごせるように家具の他、大切にしている仏壇、家族の写真、ぬいぐるみ、掛け軸、装飾品、嫁入り道具の違い棚等持ち込まれて、家族と相談して使いやすいように配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室担当が毎月のADLの変化をチェックし、出きる限り自分でできることはして頂けるようにコミュニケーションをとっている。		